

全国統一要求（抜粋）

- 1. 全ての公共工事現場で直接工事費分の単価支払いを実現
- 2. 砕石、砂利、砂、合材などの骨材運搬の収入も1日4万円以上に
- 3. 過積載復活させるな



発行所
全日本建設交運一般労働組合
東京都新宿区百人町 4-7-2
電話 03(3360)8021
毎月25日発行
1部 50円

ダンプの仕事と生活を守る 単価改善闘争を推進しよう

令和3年3月から適用する公共工事設計労務単価について 資料 1

単価設定のポイント

- (1) 最近の労働市場の実勢価格を適切・迅速に反映し、47都道府県・51職種別に単価を設定
- (2) 新型コロナウイルス感染症の影響下であることを踏まえた特別措置※を実施
- (3) 必要な法定福利費相当額及び義務化分の有給休暇取得に要する費用の反映を継続

※前年度を下回った単価は、前年度単価に据置

全職種	
全国 (20,409円)	令和2年3月比; +1.2% (平成24年度比; +53.5%)
被災三県 (22,164円)	令和2年3月比; +0.6% (平成24年度比; +69.8%)

主要12職種					
職種	全国平均値	令和2年度比	職種	全国平均値	令和2年度比
特殊作業員	22,193円	+0.3%	運転手(一般)	19,916円	+1.7%
普通作業員	18,939円	+0.3%	型枠工	25,511円	+1.7%
軽作業員	14,623円	+0.7%	大工	24,748円	+0.7%
とび工	25,082円	+0.9%	左官	24,360円	+0.3%
鉄筋工	24,839円	+0.2%	交通誘導警備員A	14,364円	+2.1%
運転手(特殊)	22,835円	+0.9%	交通誘導警備員B	12,562円	+2.1%

注1) 金額は加重平均値、伸率は単純平均値で算出 注2) 被災三県における単価の引き上げ措置(継続)

国土交通省が2月15日に発表した設計労務単価のポイント



中小企業庁へ要請書を提出する建設アクション実行委員会 (3月5日東京・衆議院議員会館)

中小企業庁からは「再給付ではなく、一時支援金での対応を考えている。各種補助金や無利子担保の融資等で、事業継続を支えていきたい」と回答。菅政権に同調した対応に終始しました。

国土交通省は新年度の公共工事設計労務単価を3月から前倒しの適用を発表しました。新単価は全国加重平均で昨年比約1.2%上昇し、東日本大震災の被災3県(岩手、宮城、福島)は0.6%上昇しました。2013年から9年連続の引上げ措置です。2012年度と比較すると全国

平均53.5%、被災3県は69.8%上昇しました。(別表参照) ダンプ労働者の場合、適用業種の単価は「一般運転手」となりますが2012年度は「13,850円」でしたが、新年度は「19,916円」となり、月22日稼働で計算すると月額13万円以上の賃

上げにつながります。コロナ禍だからこそ低単価を改善しよう 過去8年間で引き上げ分の単価は各現場で支払われていません。実態調査の実施にもとづく改善措置を求めると発注者は拒否します。しかし今

建設 共闘 再給付を求める要請行動 建交労が参加する「2020建設アクション実行委員会」

は3月5日(木)、経産大臣に對して「持続化給付金ならびに家賃支援給付金の再給付を求める緊急要望書」を提出し、衆議院第1議員会館で中小企業庁との意見交換を行い、新型コロナウイルスによる経済悪化で困窮する仲間への各種支援策の拡充を訴えました。行動には34人が参加し、日本共産党の国会議員3名が秘書と共に激励に駆けつけました。代表して千葉土建・赤羽根書記次長が組合員から集約したアンケート結果をもとにコロナ禍において苦しい仲間の実態を伝え、持続化給付金と家賃支援の再給付、一時支援金の建設業への対象拡大を訴えました。

経済闘争

積算単価1.2%引き上げ 9年間連続で改善を実施

全国ダンプ

国土交通省は、2013年度から9年連続で公共工事設計労務単価の引き上げを発表し、今年も3月分の発注工事から前倒しで実施しています。ダンプ労働者の場合は「一般運転手」が適用されます。2012年度の常用単価は「13,580円」でしたが、今年度は「19,916円」と知らせ、各地でとりくみを展開しましょう。

調査で下がった地域については前年度と同じ価格に据え置いたことを示しています。つまり意図的に発注単価を引き上げたことになりました。私たちが各現場で単価改善闘争を推進するための追い風であり、経済的要求を実現するチャンスです。全国ダンプ部

コロナ禍だからこそ低単価を改善しよう

持続化給付金・家賃支援 再給付を求める要請行動

建交労が参加する「2020建設アクション実行委員会」

東日本大震災から10年 被災地を風化させるな

全国ダンプ

10年間を振り返って 森谷稔前部長

地震の発生時に誰もが経験したことのない揺れは、一瞬何が起きているのか分からない感覚でした。私は車で走行中でしたが、路上に車を止めると、車がひっくり返る恐怖を感じました。事務所のある郡山市に向けて車を進めると、4号線は大きく割れ、ガソリンスタンドの屋根が地面に崩落、大型トラックが横倒し、全壊した家屋があちこちにありました。大変な事が起きたと段々に理解出来ました。

地震の恐怖から3日後の14日、福島第一原発で水素爆発が起きました。福島県民なら誰でも、全てが終わったと思っただけでしょう。何故なら、放射能は目に見えないからです。私も家族そろって新潟方面に避難しましたが、避難先で老母を救急搬送する事になり、どこで死んでも一緒と、4日後に福島の自宅に戻りました。

3月28日には、仙台市で現地対策本部が発足し、私が本部長を務めることになりました。建交労各組織の被害状況の把握と、当面の復旧活動の安全を確保するため、翌29日は発注機関や業界団体への申入れ活動を行ないました。当時は震災直後で混乱していましたが、がれきの撤去や行方不明者の捜索などで、ダンプの仲間も車に寝泊まりの奮闘ぶりでした。

スタンドには燃料がなく、宿泊できるホテルも確保できず、四苦八苦の活動でした。4月に入ると全上場セネコンの支店を回り、現場作業員のアシベスト対策や適正賃金の支払いを求めました。

被災地での活動を本格化させるため、対策本部事務所を仙台市に設置しました。最初の3年間は部会や全国からのカンパで活動費が賄われたものの、その後は東北ブロックで活動費を捻出する必要がありました。それでも青年部や関西支部からのカンパは総額で300万円を超え、大きな力になりました。当初は、各業種部会が対策本部に集中して活動を展開する想定でしたが、結果としてはダンプ部会のみとなりました。従って、私たちが活動する範囲は限られており、復旧現場で働く労働者の安全確保と適正賃金の支払い等が中心となりました。

やがて主要道路のがれき処理や復旧工事が進むと、本格的な復興工事が始まりました。全国から多くのダンプが被災地に集結し、どこの道路もダンプであふれかえりました。通常の工事では2次下請止まりですが、復興工事では8次下請けなどはざらでアパートの一室を事務所にしてはいるペーパー会社なども横行しました。ダンプに対する不払い事件も多発し、この解決も大きな活動になりました。

復興工事で暗躍する暴力団等の存在に関して、英国のタイムズ紙東京支局長の取材を受けたこともあり、朝日新聞は、沖縄や静岡から応援に来ていた組合員を取材して、写真入りで正月に大きく報道してくれました。芸能人が身銭を切り、炊き出しをやるのと違い、ダンプは賃金を得ながら復興工事に就労するので、達成感には複雑なものがあります。しかし、ダンプの活躍無しにがれき処理からは始まった復旧・復興工事は成り立ちません。(続く)



大津波が押し寄せて流され、荒れ果てた小学校の様子（仙台市内）



震災から約1か月後に仙台市内の視察を行った全国幹事会(当時)

復興工事で暗躍する暴力団等の存在に関して、英国のタイムズ紙東京支局長の取材を受けたこともあり、朝日新聞は、沖縄や静岡から応援に来ていた組合員を取材して、写真入りで正月に大きく報道してくれました。芸能人が身銭を切り、炊き出しをやるのと違い、ダンプは賃金を得ながら復興工事に就労するので、達成感には複雑なものがあります。しかし、ダンプの活躍無しにがれき処理からは始まった復旧・復興工事は成り立ちません。(続く)

埼玉北部
埼玉ダンプ北部支部は、2月28日(日)に、第41回定期大会及び、公共工事就労運動推進分会協議会第21回定期総会を加須市内で開催し、支部40名、就労協議会46名が参加しました。本来、支部大会は毎年8月に開催していましたが、昨年のコロナ禍で開催を見送ったことから、就労協議会の開催に合わせて、同時の開催になりました。毎年、別々におこなっていた大会を同時開催し、一回で済みますが議案や決算報告等は、両組織の提案をしなければならず、戸惑いながらの開催となりましたが、参加組合員の協力の元で特に問題なく進行するこ

とができました。大会では、野呂委員長挨拶で始まり、経過報告・運動方針案を支部は深谷副委員長、就労協議会は、山崎事務次長、決算報告・予算案は支部、就労協議会共に平田書記長が提案しました。全ての議案は賛成多数で採択され、新執行部も全員が選ばれました。最後に川村副委員長の団結頑張ろうで大会を終えました。

役員体制
執行委員長 野呂 武留
副委員長 川村 靖夫
書記長 深谷 久志
書記次長 平田 秋一
同 山崎 進一
同 好雄



感染防止対策を徹底して、仲間が集まりました。(2月28日埼玉県・市民プラザかぞ)

結集と団結を強化し 仕事と生活を守ろう